

テーマ

「ピッチ知覚に対する理論と新たな展開
へ向けての視点」

“Models of pitch perception and what
you should mind for a new direction”

講演者:京都市立芸術大学 教授 津崎 実

日 時:平成30年12月7日(金)15:30~17:10

場 所:情報科学系講義棟2階 大講義室

講演要旨:

ピッチは聴覚にとっての「顔」のような役割を果たし、この感覚は聴覚特有のものとも言える。その物理的実態が1秒間に数十回から数万回に至る高速の圧変動であることから、我々の直感はそのような振動への追随性が身体に備わること否定的な見方になりがちである。この直感とは反する生理学的な証拠が集まることでピッチ知覚機構に関する解明は進歩を遂げてきた。しかしながら、依然として捉えられた基本周波数からピッチ知覚表現に対してのマッピング機構の詳細については未解明なままである。加齢によりピッチ知覚が変容するという驚くべき事実は、このマッピングの仕方に関わるレベルをピッチ知覚モデルに実装する必要性を訴えるものである。知覚現象報告と提案する新たなピッチモデルについて概観する。

講演者略歴:

1980年	東京大学文学部第IV類(行動学)卒業
1982年	同大学院人文科学研究科心理学専門課程修了(文学修士)
1982~1985年	新潟大学人文学部助手
1985~1988年	東京大学文学部助手
1988~2004年	国際電気通信基礎技術研究所(ATR)にて、視聴覚機構研究所、人間情報研究所、音声コミュニケーション研究所のプロジェクトに主任研究員として参画
2004年~	京都市立芸術大学准教授(2011年教授に昇進)《現在に至る》

参加申込・予約は不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ先: 共通事務管理課共通事務第二係 (E-mail: is-secr)